

第6章 現状と課題

1. 保存管理の現状と課題

	現状	課題
保存対策	【全体】 <ul style="list-style-type: none"> ・曲輪や石垣、池などの遺構の具体的な遺構保護対策が図られていない。 ・遺存する遺構の保存に悪影響をおよぼす樹木が生育している。 ・史跡地内及びその周辺の山麓部において、溪流の一部が土石流危険溪流に、山麓斜面とその裾部の一部が土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域の指定を受けている。 ・史跡地の大半が国有地(林野庁)と県有地であり、市有地化が進んでいない。 	【全体】 <ul style="list-style-type: none"> ・遺構の現状を適切に把握した上で、定期的な経過観察を実施し、保存対策の検討が必要である。 ・八上城跡、法光寺城跡、奥谷城跡が築かれた自然地形の保存のあり方についての検討が必要である。 ・山麓の遺構保存のため、土石流危険溪流や、土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域の指定を踏まえた防災対策のあり方の検討が必要である。 ・市有地化にむけた継続的な取り組みが必要である。
	【八上城跡】 <ul style="list-style-type: none"> ・堅堀内の一部が見学路となっており来訪者が遺構内を通行している。 	【八上城跡】 <ul style="list-style-type: none"> ・堅堀内を通行するため、遺構の保存方法の検討が必要である。
植生・樹木	【全体】 <ul style="list-style-type: none"> ・史跡地の全域が、兵庫県緑条例による「森を守る区域」(第1号区域)に指定されており、資源林としての活用を図りながら、水源涵養や防災、風景形成等の観点から保全が図られている。 ・高城山、法光寺山とも山頂部を中心にアカマツ・モチツツジ群集が広がり、山腹部の一部にコナラーアベマキ群集とスギ・ヒノキ・サワラ植林が広がっている。 	【全体】 <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県の緑条例を踏襲しつつ、遺構や自然地形の保存の観点から、山城としての適切な目標林の設定が必要である。
	【八上城跡】 <ul style="list-style-type: none"> ・石垣遺構の保存に悪影響を及ぼしている樹木がある。 ・曲輪内の樹木を伐採したことで灌木等が繁茂し、一部の曲輪では立ち入りが困難になっている。 	【八上城跡】 <ul style="list-style-type: none"> ・石垣遺構の保存に悪影響を及ぼしている樹木の伐採が必要である。 ・灌木等を除去し、曲輪の顕在化を図る必要がある。
	【奥谷城跡】 <ul style="list-style-type: none"> ・大手虎口付近やその奥の曲輪が竹林となり、竹林管理が行き届いていない。 	【奥谷城跡】 <ul style="list-style-type: none"> ・遺構保存のため、竹林の適切な維持管理のあり方の検討が必要である。
施設等	【全体】 <ul style="list-style-type: none"> ・史跡を示す史跡指定標柱が設置されていない。 ・史跡地範囲を明示する史跡境界杭が設置されていない。 ・史跡保存のための注意看板等が設置されていない。 	【全体】 <ul style="list-style-type: none"> ・史跡指定標柱の設置が必要である。 ・史跡境界杭の設置が必要である。 ・史跡保存を周知するための注意看板の設置が必要である。
	【法光寺城跡】 <ul style="list-style-type: none"> ・尾根上の曲輪を分断するように獣害柵が設置されている。 	【法光寺城跡】 <ul style="list-style-type: none"> ・遺構の保護と顕在化を図るため、獣害柵の設置位置の再検討が必要である。

調査研究	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 史跡内での発掘調査は行っていない。 ・ 史跡指定以前の平成 13～15 年度の遺構調査以後、遺構の分布調査等を行っていない。 ・ 史跡指定以前の平成 13～15 年度の史料調査以後、文献史料等の調査は行っていない。 	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画的な遺構分布調査や発掘調査による実態解明が必要である。 ・ 文献史料等の調査研究が必要である。
------	--	---

2. 活用の現状と課題

	現状	課題
周知・情報発信	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登山口での八上城跡のパンフレット配布は春日神社側のみ実施している。 ・ 八上城跡、法光寺城跡、奥谷城跡の主要な入口部に城跡の概要を示した説明板を設置している。 ・ 八上城跡や来訪者のための多様なサイン類が設置されている。 ・ 八上城跡に関するガイダンスは、篠山城跡の大書院内でパネル展示等を実施しているのみで、ガイダンス機能が不足している。(写真 6-1) ・ 八上城跡に関する情報発信が不足している。 ・ 丹波篠山市では市内の山城を紹介した「丹波篠山ロマン街道 戦国乱世の道マップ」を作成し、丹波篠山の新たな魅力発見に努めている。 ・ 市の観光協会や J R 篠山口駅での周知が行われていない。 	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 八上城跡の周知のための情報発信が不十分であり、八上城跡に関する基本的な情報が入手しづらい。 ・ 説明板の説明内容やデザイン、内容の統一など、見直しの検討が必要である。 ・ 八上城跡の周辺において、八上城跡や関連文化財に関するガイダンス機能を整備し、城跡の魅力や調査研究成果の情報発信が必要である。 ・ 市のホームページや広報誌などで、八上城跡の価値や魅力の情報発信に努める必要がある。 ・ 子供向けを含めた、より分かりやすいパンフレット等の作成の検討が必要である。 ・ 観光協会をはじめとする関係機関との連携を図り、幅広い周知活動のあり方の検討が必要である。
イベント	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 八上城跡等の市内の山城について、『丹波篠山の山城の保存と活用について』と題した歴史まちづくりフォーラム等が開催されている。(写真 6-2～5) <p>【八上城跡】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「高城山へ登ろう会」による登山道整備や山頂の草刈、八上城登山などのイベントが実施されている。 	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 八上城跡をはじめとする市内の山城に関するフォーラムや、市民向けの報告会等を継続的に実施していく必要がある。 <p>【八上城跡】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「高城山へ登ろう会」をはじめとする各団体との連携を図り、イベントの内容や維持管理のあり方の検討が必要である。
学校・社会教育	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の八上小学校では、ふるさと教育の一環で、八上城跡をテーマとした学習に取り組んでいる(写真 6-6) ・ 丹波篠山市全域の小中学校では、八上城跡を対象とした授業が特に行われていない。 	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次世代へ史跡八上城跡の価値を伝え、ふるさとへの愛着と誇りを育むため、八上城跡や地域の歴史を対象とした学校教育や社会教育への展開や取り組みが必要である。

アクセス	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八上城跡への最寄りのバス停である「十兵衛茶屋」バス停と JR 篠山口駅とを結ぶ路線の本数が少ない(4本/日)ので利用しづらい。 ・JR 篠山口駅でレンタサイクルを利用できるが、距離がややあり(約6km)、ルートが設定されていないため、アクセスが不便である。 	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関を利用したアクセス方法について関係機関と連携を図る必要がある。 ・JR 篠山口駅からのアクセスルート(サイクリングルート)の設定が必要である。
	<p>【法光寺城跡】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法光寺城跡(尾根部)へのアプローチ(見学路)がない。 	<p>【法光寺城】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺構保存を前提とした法光寺城跡(尾根部)へのアプローチ(見学路)の整備が必要である。
関連文化財との連携	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・篠山城跡や篠山伝統的建造物群保存地区をはじめとする歴史文化遺産との一体的な活用が行われていない。 	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹波篠山の歴史文化をより深く伝えるため、関連する歴史文化遺産との一体的な活用の展開、回遊性の創出を図る必要がある。

3. 調査の現状と課題

	現状	課題
遺構調査・発掘調査	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財調査は、史跡指定以前の八上上遺跡(国道372号線付近)と殿町地区遺跡の2箇所にとどまっており、史跡地内での発掘調査は行っていない。 ・史跡指定以前の平成13～15年度の遺構調査以後、遺構の分布調査等は行っていない。 ・現状の登山ルートが本来の登城路なのか不明である。 	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な登山ルートや見学動線を設定するための遺構調査が必要である。 ・兵庫県が公開する高精度3次元地理空間データによる遺跡立体図などを参考に、新たな手法も用いた遺構の分布調査が必要である。 ・本質的価値を把握し、正しく伝えていくための発掘調査が必要である。 ・史跡の保存や活用などの目的に応じた調査内容の検討が必要である。
文献・史料調査	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・史跡指定以前の平成13～15年度の史料調査以後、文献史料等の調査は行っていない。 	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献、古絵図、民俗等の多角的な調査研究により、城跡や城下町および街道との関係性を明らかにする必要がある。
調査成果の周知	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・史跡指定以前の平成13～14年度(2001～2002)にかけて、遺構の縄張り調査及び文献史料調査が実施され、その調査成果は『八上城・法光寺城跡調査報告書(平成15年3月)』としてまとめられており、図書館や市役所で閲覧できる。 	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の調査成果等の周知方法についての検討が必要である。

4. 整備の現状と課題

	現状	課題
保存のための整備	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺構保存のための整備は特に実施していない。 ・史跡標柱及び史跡範囲を示す境界標が設置されていない。 	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じた整備の検討が必要である。 ・史跡標柱及び境界標の設置が必要である。
活用のための整備	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八上城跡、法光寺城跡、奥谷城跡の主要な入口部に城跡の概要を示した説明板を設置している。 ・八上城跡、法光寺城跡、奥谷城(蕪丸)跡を巡る見学ルートが整備されていない。 	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明板の説明内容や様式や内容の統一など、見直しの検討が必要である。 ・遺構の残存状況や遺構分布調査の成果を踏まえ、登山道のルートや遺構保護のための見学路ルート、さらに見学エリアの設定が必要である。
	<p>【八上城跡】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登山道は擬木階段で整備しているが、雨水による土砂流出によって段差が大きくなり、利用しづらくなっている。(写真 6-7) ・史跡地外の春日神社側登山道入口付近にトイレを設置しているが、男女共用で老朽化している。(写真 6-8) ・見学路の分岐点に行先表示板を設置している。 ・山頂部にベンチを設置している。 ・本丸に設置されている「波多野秀治公表忠碑」に関する説明板が、野々垣口の登山道入口に設置されている。 ・西荘口の登山道入口に説明板が設置されている。 ・国道 372 号線沿いに八上城跡の看板を設置している。(写真 6-9) ・史跡地外の旧街道沿いの春日神社側登山道付近と、史跡地外の高城山東側の野々垣口の 2 箇所に駐車場を整備している。(写真 6-10・11) 	<p>【八上城跡】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な登城ルートを検討した上で、擬木階段の段差を解消するなど、来訪者の安全性・利便性を確保する必要がある。 ・史跡全体の周遊動線を検討し、トイレの適正な配置・規模等を検討した上でトイレ整備を行う必要がある。 ・多様なデザインや内容のサインがあるので、デザインや内容の統一を図る必要がある。 ・山頂部に設置しているベンチの維持管理が必要である。 ・必要な便益施設の機能と配置の検討が必要である。
	<p>【法光寺城跡・奥谷城跡】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学ルートが設定されていない。 ・遺構の説明板や行先表示板等は設置していない。 	<p>【法光寺城跡・奥谷城跡】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法光寺城跡(尾根部)や奥谷城跡内へのアプローチ整備が必要である。 ・遺構の説明板や行先案内表板が必要である。

5. 運営体制の現状と課題

	現状	課題
庁内体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 史跡の保存整備にかかる事業の推進にあたっては、森林に関しては森づくり課、駐車場整備や看板設置などに関しては商工観光課などの関係部局と連携を取りながら対応している。 ・ 史跡の保存管理や整備については、丹波篠山市教育委員会事務局社会教育部社会教育・文化財課が担当しているが、市内全域の文化財に関する業務全般を担当しており、専門職員をはじめとした職員配置が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 八上城跡と篠山城跡や伝建地区が一体となった回遊ルートの整備等、関連部局との取り組み体制の構築が必要である。 ・ 史跡の保存管理や整備及び今後の調査研究に向けては、庁内体制の整備が必要である。
関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高城山の大部分が国有地(国有林)、法光寺山の大部分が県有地であり、事業の実施にあたっては、土地所有者と協議の上、実施している。 ・ 史跡地範囲外の主膳屋敷跡は春日神社の所有で、登山道整備や樹木伐採等は合意を得た上で実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 史跡地内の市有地はごくわずかで、大部分が国有地(国有林)と県有地であるので、維持管理や整備については、土地所有者との調整が必要である。
市民参画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元活動団体によるイベント、案内板の設置などが行われている。(写真 6-12) ・ 令和 7 年 1 月、山城の保存活用に取り組む地域団体間の連携を推進するため、山城ネットワークを設立した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民や市民のみならず、八上城跡に関心や興味のある全国の山城愛好家など、幅広い市民参画のあり方を検討する必要がある。



写真 6-1 篠山城跡大書院での八上城跡のガイダンスコーナー



写真 6-2 史跡八上城跡指定 10 周年記念フォーラム



写真 6-3 山城を活かした地域づくり意見交換会



写真 6-4 歴史文化まちづくりフォーラム



写真 6-5 歴史文化まちづくりフォーラム



写真 6-6 八上戦国ウォークにおける模擬合戦



写真 6-7 段差の大きい擬木階段



写真 6-8 老朽化しているトイレ



写真 6-9 国道 372 号線沿いの看板



写真 6-10 旧街道沿いの駐車場



写真 6-11 野々垣地区の駐車場



写真 6-12 地元で設置された案内板